

はな  
花まつり

北海道利尻郡利尻町 にちようがっこう  
仙法志明照園 目曜学校



五月二十一日(日曜日)快晴に恵まれ、二十二名の日曜学校生徒(小学校一年生～六年生)は各自が例年のように、お祝いの花を持参し花御堂の周り(誕生佛)に供えた。

北の大地に花が  
いっぱい咲いたよ



チューリップ、黄水仙、桜などで誕生佛は花の御堂の中にすっぽり入り、「昔も昔も三千年」とお釈迦様の誕生を祝う花まつりの歌を唱え、そして、甘茶をかけて拜んだ。一年生から順番に、小さなひしや

イキイキ☆コドモタイムズ

第5号

発行  
浄土宗児童教化連盟

事務局  
〒590-0935  
大阪府堺市堺区神明町東  
3-1-40 法伝寺内

TEL・FAX  
072-233-5354

昆虫和尚の「小さいのちの物語」  
「足もとのワンダーランド」(カタバミ・ヤマトシジミ)

まず、写真の①と②をごらん下さい。①の蝶はヤマトシジミ。だいたい実物と同じ大きさに印刷して、もらいました。②の花はカタバミ。ヤマトシジミの一枚のハネより、少し小さい五弁花だ。



① 二日ほどで花が閉じられると、野菜のオクラの超ミニ版みたいな実がなる。五日ほどでタネが透けて見えるようになる。写真の③だ。それから五日足らずで外側がカチカチになってくると突然、破裂する。その一瞬、無数のタネが四方八方にはじき飛ばされる。二センチ足らずの実から五メートル以上も遠くにタネが飛び散って行く。ここにもワンダーランドがある。

ところで、旺盛な生命力を誇るカタバミが、見るも無残なほど葉を食い尽くされているのも、決して珍しくない。犯人(?)は、ヤマトシジミ。シユウ酸を含んでいるので、ほかのムシたちが嫌うカタバミなのに、この草しか食べないのがヤマトシジミの幼虫だ。僅かに残された葉のキズを手掛りにルーペで探してた写真④にニミり足らずの幼虫も、十日余りで写真⑤のサナギから羽化し、カタバミと共にテリトリーを拡大していく。

凶鑑に「庭や道にごく普通な、世界に拡がった多年草」とある。写真②の花や葉を、今まで一度も見た記憶のない人が、万一、いたら、今すぐ庭か道路に飛び出すといい。いくら手入れの行き届いたお庭でも、また街路樹の根元や店先のプランターの片隅、さらには歩道に敷きつめられたプロックのすきまにも、根をおろし路面にへばりついて、盛大に花を

(長野十念寺住職 日本昆虫協会長野支部顧問 袖山榮真)



# 箱問質 ナムナム

## 質問

南無阿弥陀仏っておとなえするとき、手はパンパンってたたかないの？  
(滋賀 小学校2年)

## 答え

さて、皆さんが手を合わせるときって、どんなときかなあ？

ご飯を食べるとき、「いただきます」や終わったときの「ごちそうさま」のとき。また友達に「おねがい」ってお願いするとき。そしてお寺の仏様や神社の神様をお参りするときや、ご先祖様のお墓参りに行ったとき…かなあ。この手を合わせる習慣は、私達の住む日本だけでなく、仏教の国インドや中国など

様々な国でも行われていますよ。

では、質問の手を2回パンパンって鳴らす作法についての答えですが、仏様(阿弥陀様)をお参りし、「なむあみだぶつ」っておとなえするときは、手をたたきませうんこれは、神社の神様をお参りするときにだけ行う作法なのですよ。

でも、神様のお参りの仕方をよく知っていましたね。この手を鳴らすことを「拍手を打つ」といいます。詳しく話すと、手をたたきその音(波動)で、神様にこちらに気づいてもらい(ご霊力を呼び覚まし)、お願い事をきいてもらう(ご利益を戴く)ためにたたきのです。日本では昔々(古代)の宗教的指導・統治者(古)が行った呪術に通じるものだそう。お祭りのときの太鼓や芝居のときの拍子木も、神様をお迎えする作法が始まりだといわれています。

お願い事や、感謝の気持ちがあしつかりと届くように、大きく手をたたいてください。正しいお参りの仕方は、神様に向かつて2回おじぎをし、

2回拍手を打って、お願いごとをしなから1回おじぎ(おがむ)をするのだよ。

それでは、仏様(阿弥陀様)をお参りするときの作法です。まず右と左の手のひら(掌)を、指を開かずしっかりと閉じて合わせてお参りします。この手を合わせることを合掌(堅心合掌)といいます。これは仏様の手を合わせた(合掌印)お姿をまねると同時に、仏様のように心を静かに沈め、仏様にお守り(ご加護を)頂いたり、仏様のお力にすがりお願い事をきいてもらうためにする作法です。ご先祖様をお参りするときも同じようにします。正しいお参りの仕方は、仏様(阿弥陀様)に向かつて合掌し、そのままお念仏「南無阿弥陀仏」と10回おとなえし、1回おじぎ(おがむ)をします。



お願い事や、感謝の気持ちがあしつかりと届くように、気持ちをお念仏しましうね。

《浄土宗児童教化連盟では昨年一月二日〜九日に「青少年ゴッゴッ仏跡ツアー」を実施。青少年がタイ・インド・ネパールを訪れ、様々な国際交流を行ないました。その体験記をシリーズでお送りします。》

## 青少年ゴッゴッ仏跡ツアーに

### 参加して・その五

長野 高校三年 倉崎祥史

夕飯は日本食レストランに行きました。豆腐がとても柔らかくてとてもおいしかったです。団長から旅行の感想はと聞かれ、「また来たいと思う」と答えました。

いろいろ説明してくれた売り子からポーチを日本円で買いました。活気があって親切でいい町だと思いました。空港では建物に入るのにいきなり荷物検査で驚きました。その後X線や靴をあけて調べる検査もありました。この検査の時にカメラの予備の電池が没収されてしまいショックでした。飛行機までエプロンを歩いたうえ搭乗直前にも身体検査があり、大変でした。高度八千メートルの機上から見たヒマラヤの山々が横に見え、とてもきれいで印象的でした。

次の朝ボタン観光をしました。旧王宮やゴールデンテンプルのあるダルバール広場に行きました。バスを降りたとたん売り子たちに囲まれ、見学している間中ずうつとりつかれていました。教わったネパールの言葉で「いらない」という意味の「チャヒンチャヒン」と言いましたが、「チャヒンチャヒン」と言いながらいつまでもついてきました。売り子たちも必死に売ろうと日本語でがんばっていました。

タイの空港で解散式をしました。これで日本に帰るとみんなともお別れでとても寂しく感じ、またこのメンバーで旅行に行きたいと思いました。長野に帰ると大雪で、とても寒く感じインドやネパールにもっと居たかったです。

ゴールデンテンプルにはおかしな日本語で、「革靴をはいておかないで下さい」と書かれた看板がありました。建物全てが彫金で覆われていてとてもきれいでした。

今回の旅行でいろいろなことを学ぶことができてとてもよかったです。

(おわり)

君も達人になれる

仏事をマスターしよう!

第5回 花(その2)

お花をお供えするのは、仏さまを飾る為だけにお供えするものではありません。供えられた花を見て、穏やかな気持ちになり、仏さまにお参りする為のものです。ですから?花をお供えする時は拝む私たちのほうへ正面が向くようにします。

また、仏さまにはトゲのある花、いやな匂いのする花はお供えしません。梅「しきみ」以外の毒のある花もお供えしてはいけません。枯れたり、しおれたりした花をそのままにしてはいけません。できることなら、気をつけてこまめに交換したいものです。

拝む私たちが見ても気持ちの良いようにいたしましょう。



ゆずりんの

中国語ポイントレッスン

日本でもよく耳にする「ハオチー」ですが中国語では、食物がおいしい時に「好吃」hao chi(吃は(食べる))。飲み物おいしい時には「好喝」hao he(喝は(飲む))。否定形は頭に「不」をつけて「不好吃/不好喝」と使います。

中国には、日本のように食べる前の「いただきます」や食後の「ごちそうさま」の習慣はありませんが、食事がすんだ時に「吃饱了」chi bao le(満腹である)と言ったりします。

餃子「jiaozi」は、日本の焼餃子とは違い水餃子(煮たもの)が一般的で、具も各家庭によって違い、日本のお味噌汁のように、家庭の味を代表したものとされます。

中国では旧暦(旧制のこよみ)でお正月を祝いますが日本の年越しそばのように除夜の日に餃子を食べる習慣があります。町の餃子屋さんでは、何十種類もの餃子があり中には甘い(お芋やなつめ等)の餃子もあり、色々食べるのは、非常に楽しいものです。

みんなであら考えよう

ちがいががし

左の絵と右の絵のちがうところは全部で6つあります。よくさがして見つけてね。わかった人は答えをハガキかFAX、Eメールで送ってください。

送り先

〒614-8015 京都府八幡市八幡目所1 念佛寺内 「イキイキ☆コドモタイムズ」クイズ係 FAX 076-933-8995 Eメール puk.puk@wf6.so-net.ne.jp

\*住所・氏名・学年を忘れずに書いてください。「コドモタイムズ」の感想も書いてね。

ぷくぷく編集室



プール・海・花火・ラジオ体操・すいか・セミ・家族旅行・お盆・宿題・友だち... 長かった夏休みも終わりましたが、みなさんにとって、たくさーんの思い出が残ったことと思います。思い出というのは姿形としては見えませんが、大人になっても大切な物としてずーっと心の宝宝箱に残しておいてください。

ぷくぷくの小さいころの思い出は、サイダーみたいなシユワーツとしたような感じですか。どういう意味かって?さあ、なかなか言葉では言い表せないなあ。のどごしのきつい、ぷちぷちしたような感じかな...よけいにわからないよね。

お知らせ

青少年ゴーゴー仏跡ツアーII「ニイハオ! マイブッダ」のお知らせ 浄土宗児童教化連盟では、平成19年3月26日(31日)、子ども海外研修旅行を実施します。行き先は中国で、世界遺産(雲崗石窟・秦始皇帝陵・兵馬俑坑・平遙)や浄土宗に關係する寺院を訪れます。春休みに素晴らしい体験をしてください。くわしい資料をお送りしますので 事務局 (TEL・FAX 072-233-5354・Eメール puk.puk@wf6.so-net.ne.jp)までご連絡ください。

これも仏教の言葉だよ! だいじょうぶ (大丈夫)

怪我をした時、「大丈夫?」て、聞かれるよね。この大丈夫は、もともとはしっかりした人という意味だったんだよ。何ごとにも迷わずにいる人。 ちょっとした怪我で、「いたい、いたい」と言っていたら、どんどん痛くなってしまうよね。だから、「大丈夫」と言って、心も身体もしっかりした、強い人になつてね。